

～日本のジェンダーギャップについて～

機械工学科

岡田 空士

大日方 司

テーマ設定の理由

- 各国のジェンダーギャップと、日本のジェンダーギャップには大きな差があったから。（ジェンダーギャップ指数から）
- 今の日本は、世界から見た時にどのくらいジェンダーについて、意識しているか知りたかった。

現状

4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



10 人や国の不平等
をなくそう



- 日本のジェンダーギャップ指数・・・ (2021年のデータ)
- 日本の管理職の割合・・・世界117位 (2021年のデータ)
- 日本で大学に相当する高等教育(就学率)・・・世界110位
- 日本の中で男女が不平等だと思う(世論調査)・・・91%
- 日本の女性国会議員の割合・・・14.4%
- 男性の育休取得率・・・ (平成30年のデータ)

- 日本の取り組み
 - 1979年 「女子差別撤廃条約」
 - 1985年 「男女雇用機会均等法」
 - 1975年 「世界女性会議」 に参加
 - 1994年内閣に 「男女共同参画局」

問題点

- 1. 「性別役割分業意識」が今でも残っている。
(夫は外で働き、妻は家庭を守るという意見に日本は、賛成意見が過半数を占めている。)
- 2. 日本のジェンダーギャップ改善の取り組みを知らない。
- 3. 女性の賃金は男性の約70%
(女性は家事などで早く帰らなければいけないから。
問題点例1を参照)

課題

- 国民が日本の取り組みを認知し、女性議員が少ないことや、雇用・賃金などの格差の改善。
- 男性の意識改革。
- **SNS**などで活動している団体を中心に男女格差（ジェンダーギャップ）について理解されていない。
- ジェンダーギャップ指数では**G7**の中で最下位。

10代からの提言

企業で毎年一回ジェンダーについての講義を受けてもらう。

理由：学校では、ジェンダーについて学ぶ機会があるが、

社会に出てもジェンダーについて意識してもらうため。

日本全体での意識改革が必要なため。

感想

- 日本が昔から男性中心という感じは知っていたけれど、こんなに（女性閣僚**2**人）ジェンダー格差があるとは思っていなかった。
- ジェンダーギャップ指数をみたときに自分が暮らしている国が世界から見てこんなに遅れているとは思っていなかった。